



帰還困難区域内及びその周辺域に分布するイノシシの放射性セシウムのモニタリング



福島県 ○小松 仁、村上 貴恵美、神田 幸亮、稲見 健司、壁谷 昌彦 東京農業大学 根本 唯
University of Georgia 齋藤 梨絵

帰還困難区域及びその周辺域のイノシシの放射性セシウム濃度のモニタリングを2016年から2023年にかけて行った。その結果、帰還困難区域及びその周辺のイノシシの放射性セシウム濃度は、福島県内の他の地域と比べて一桁以上高い濃度で推移していることが分かった。

背景

県では、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故後、野生鳥獣肉の放射性核種濃度を測定している(図1)

^{137}Cs 土壌沈着量と筋肉中 ^{137}Cs 濃度に正の相関関係があることが分かった(図2)

将来的な出荷制限解除に向け、高濃度汚染された地域(帰還困難区域やその周辺域)の現状把握が必要である。

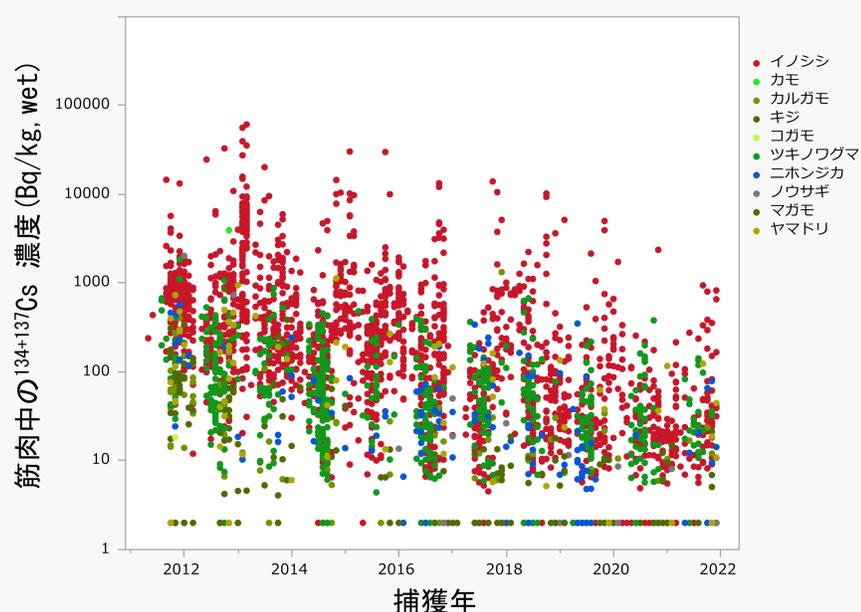


図1. 2011年から2021年公表分の野生鳥獣の放射性セシウムモニタリング結果

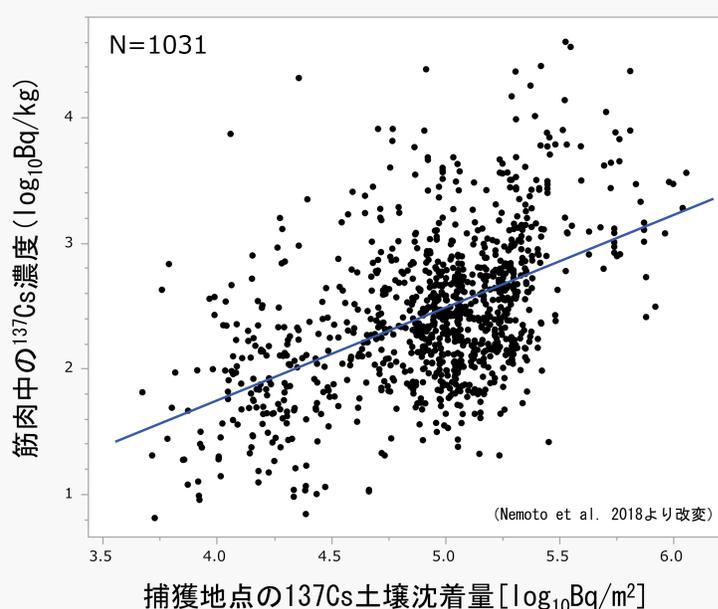


図2. 福島県の ^{137}Cs 土壌沈着量とイノシシの筋肉中 ^{137}Cs 濃度の関係

結果

地域間の濃度を比較すると帰還困難区域及びその周辺域>浜通り>中通り>会津であった(図3)

帰還困難区域では他の地域と比べて一桁以上高い濃度で推移していた(図4)

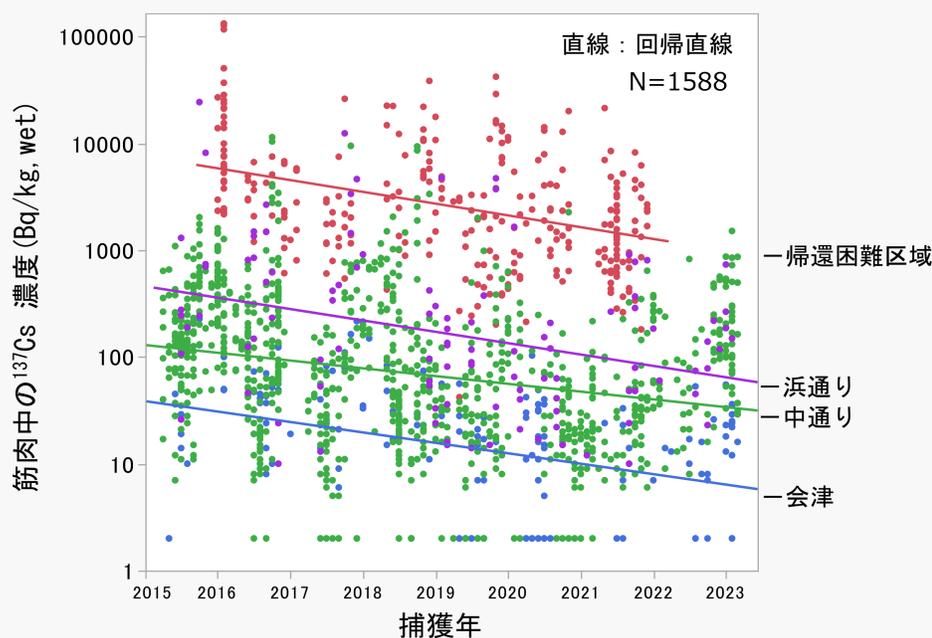


図3. 福島県全域におけるイノシシ筋肉中の ^{137}Cs 濃度

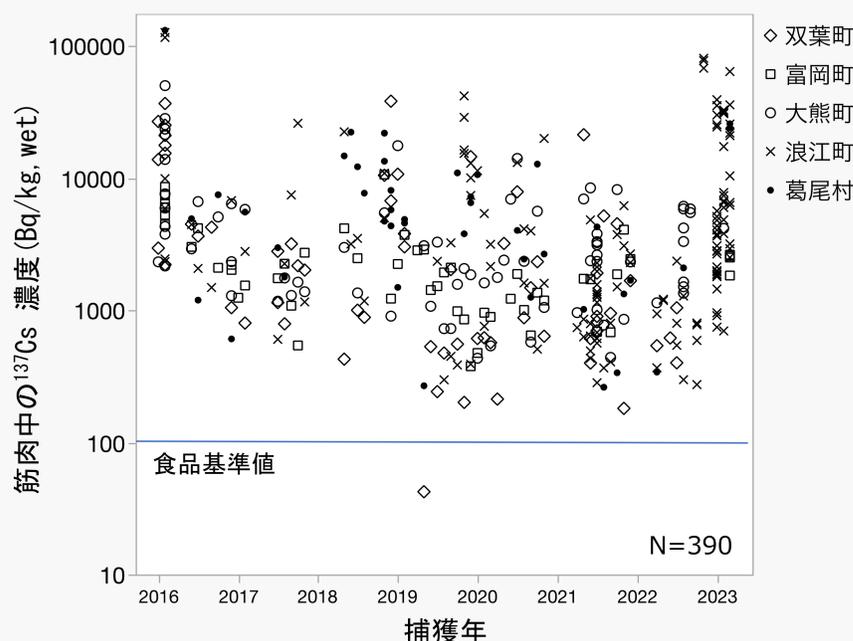


図4. 帰還困難区域周辺域におけるイノシシ筋肉中の ^{137}Cs 濃度

方法

サンプル: 環境省より提供を受けた筋肉試料の放射性セシウム濃度をGe半導体検出器により測定

調査期間: 2016年1月~2023年3月

対象地域: 帰還困難区域を含む5町村(双葉町、富岡町、大熊町、浪江町、葛尾村)